

方式・日程	学部学科	出題内容	
指定校推薦	学芸学部国文学科	これまでに読んだ文学作品をとりあげ、作品の概要、作者について知っていること、自分が感じたことについて800字でまとめなさい。	
	学芸学部国際英語学科	英語圏の学校に「留学」する（半年から1年程度）ことは、あなたにとってどのような影響があると思いますか。「良い点」と「悪い点」を理由を明らかにして具体的に説明して下さい。（1,000字程度）	
	学芸学部 化粧ファッション学科	ファッション学	「ファッションデザイン」と「素材」と「着心地」は、どのようにバランスを取れば良いか、あなたの考えを述べなさい。（600字以上～800字以内）
		化粧学	化粧をすることによる気持ちの変化について、あなたの考えを具体的な例を示しながら述べなさい。（600字以上～800字以内）
	学芸学部 ライフプランニング学科	気候変動や政治不安によって食料の安定供給が難しい地域が世界中に存在する。一方、先進国では、まだ食べられるのに捨てられる食べ物、いわゆる「食品ロス」が問題となっている。食品ロスについて、以下の問いに対する答えを800～1,000字程度にまとめなさい。 <問い> ・添付の資料から、日本における食品ロスについてどのようなことを考えることができるか。 ・食品ロスを削減するために、どのような取り組みが考えられるか。 <別紙資料> 農林水産省 2016年6月「食品ロスの削減に向けて～食べ物に、もったいないを、もういちど。～」より抜粋	
	学芸学部心理学科	「学び」とは何ですか。具体的な例を3種類以上用いて、「学び」について心理学の視点から説明しなさい。（800字～1,000字以内）	
	健康栄養学部健康栄養学科	わが国では中高年者の「過剰栄養」と高齢者の「低栄養」が社会的な問題である。このような問題を解決するためには、栄養士・管理栄養士としてどのような取り組みができるかを論じなさい。（800字以上1,000字以内）	
児童学部児童学科	障害のある子どもと障害のない子どもが、同じ場（小学校、幼稚園、保育所等）で共に学ぶことのメリットについて、あなたの考えを述べなさい。また、そのメリットが最大になるようにどのような工夫、配慮、支援が必要なのかについても合わせて800語程度で説明しなさい。		
C方式 3月15日	学芸学部国文学科	日本の文化に興味を持って、日本に来たり、定住する人々が増えています。あなたが、そのような人々と接する場合、「日本の文化」のどのような点を重点的に伝えたいと思うでしょうか。具体的に説明してください。（1,000字程度）	
	学芸学部国際英語学科	日本の文化に興味を持って、日本に来たり、定住する人々が増えています。あなたが、そのような人々と接する場合、「日本の文化」のどのような点を重点的に伝えたいと思うでしょうか。具体的に説明してください。（1,000字程度）	
	学芸学部 ライフプランニング学科	別紙資料を読み、以下の問いに対する答えを800～1,000字程度にまとめなさい。 <問い> ・新聞記事に書かれている内容を要約しなさい。 ・男女の賃金格差を解消するために、どのような施策が必要か。 <別紙資料> 日本経済新聞記事2017年2月23日	
	学芸学部心理学科	人間関係の中で「ストレス」を感じることは、人にどのような影響を受けるでしょうか。人間関係のストレスを受けたときに人や集団が被る影響について述べ、さらに、それに対処する方法を論じなさい。（800字～1,000字以内）	
	児童学部児童学科	子どもたちに音楽の楽しさをどのように教えるか、あなたの考えを800字程度で述べなさい。	

※C方式 化粧ファッション学科は出願がなかったため、掲載していません。
 ※2018年4月より児童学部児童学科は児童教育学部児童教育学科へ名称変更。

傾向

例年通りの出題である中に資料読解型出題形式という新形式の出題がみられた。

1 出題形式

【学芸学部（国文学科・国際英語学科・心理学科・ライフプランニング学科）・化粧ファッション学科（ファッション学専攻・化粧学専攻）】、【児童学部児童学科】【健康栄養学部健康栄養学科】は、指定校推薦入試A、一般入試C共に短文型の出題形式である。例年では新聞記事による課題文読解型であった学芸学部ライフプランニング学科は資料読解型の出題形式となった。字数的には600字～1,000字以内であり、600字～800字、800字以内（程度）、800字～1,000字という指定である。学芸学部国際英語学科だけは指定校推薦入試A、一般入試C共に1,000字程度で論述する出題となっている。字数的に見ても本格的な小論文課題である。

2 出題内容

推薦入試A、一般入試C共に一般的抽象的な内容ではなく、各学部学科に関係した内容に基づいた出題がなされている。また、テーマに関して「自分の考えを述べる」「内容を具体的に説明する」「取り組みを述べる」ものとなっている。一般的な学習に加えて、志望する学部学科に関したテーマ、見方、考え方などについて学習しておく必要があるだろう。学芸学部国際英語学科では、「自分自身のこと」として自分自身のことを見つめておくことが求められている。

3 難易度

指定校推薦入試A、一般入試C共に決して易しくはない。むしろ、本格的な小論文課題であり、難度は総じて高い。十分な練習の上で試験に臨んで欲しい。

1 対策の視点

推薦入試、一般入試に拘らず、「短文型」「資料読解型」という視点で考えた方がよい。

2 短文型

まず、一般的なテーマで「構成」「表現」を中心に学ぶことである。その際、練習方法の一つとして「解答例を写す」ことを提案しておく。漠然と写すのではなく、「関心事や論点」、「考えを順序良く述べる論理力」「語の使い方といった表現力」などを身につけようと意識して行なうとよい。次に、志望学部志望学科に関係したテーマに関する学習を行なう。具体的には新書などを通じて知識や見解を吸収することだ。読書の暇がないという人は、志望に則った小論文課題の中で課題文読解型の課題文をできるだけ多く読むとよい。そして

出題例 平成29年度 児童学部児童学科指定校推薦入試A問題

障害のある子どもと障害のない子どもが、同じ場（小学校、幼稚園、保育所等）で共に学ぶことのメリットについて、あなたの考えを述べなさい。また、そのメリットが最大になるようにどのような工夫、配慮、支援が必要なのかについても合わせて800語程度で説明しなさい。

解答例

障害のない子どもと障害のある子どもが幼いうちから共に学ぶことのメリットは、障害のない子どもは障害のある子どもに対して差別や優劣の意識をもたずにごく普通に接することができるようになる一方で、障害のある子どもは引け目を感じたり嫌な思いをしたりしなくて済み社会の中で個性を育む可能性が開けるということだ。

2016年4月に「障害者差別解消法」が施行された。差別解消のために偏見や先入観をもたない幼い頃から障害のある子どもとない子どもが共に学ぶ環境が役に立つと私は考える。障害による「できない」という状態が日常化することで、障害を異質なこととはせず、息をすることと同じように捉える意識が育まれると考えられるからである。

そのメリットが最大になるようにするために、日々の生活の中で障害のあるなしに関わらず子どもたちがお互いの「良さ」「良かったと思うこと」「真似したいこと」などを一日一つずつノートに書いていくことを提案したい。それを一週間に一度発表する機会を設けたり、プリントにまとめたりして全員で共有するのである。その際「できる」「できない」が優劣が繋がることのないように細心の注意を払い、「これはできないけれどもこういうことができる」というように別個の価値を見出せるように配慮をする。また、障害の有無にかかわらず平等に見守っていることを実感させるようにすることも大切だ。もちろん身体機能上の障害がある子どもには機能のある程度補正する器具を用意するという支援も欠かせない。しかし、身体機能を補正する器具を用いるからといってそれが欠点や異常であるとみなし優劣の意識に繋がることのないように配慮することが求められる。たとえば片手しか使えないということは両腕しか使えないということと同じであり制約としては五十歩百歩だという具合に、障害を制約としてではなく、新しい価値観に換える工夫をすることが必要だと私は考える。

学習法

【小論文の基礎を学ぼう！】

1 小論文とは何か

制限時間の中で特定の設問に対して文章で解答する。設問に対して的確に答えることが求められる。「自らの考え」を述べるにあたり、「作文」「感想文」との違いに注意。

2 小論文の課題の種類

①短文型

「〇〇についてあなたの考えを述べなさい」など比較的短い語句や文でテーマを示し、それについて答えさせるもの。

過去問を用いて制限字数内で序論、本論、結論といった構成を設けて答案を作成する。その後は志望に基づいた短文型、資料読解型、文章読解型の課題をこなしていくとよい。

3 資料読解型

注意することは2点ある。「特徴」と「考えの論述」だ。社会の教科書に載っている資料の特徴を200字以内で（100字程度でもよい）要約し、社会背景や原因を考えるとよい。また、話題になっている社会的な問題について関心をもつことだ。「考えの論述」に関しては、短文型と同様に志望に基づいた課題を用いて「構成」「表現」に注意をして繰り返し書いてみることを勧める。尚、今年度は未出題の文章読解型についても短文型、資料読解型同様に練習をしておくとうい。

②課題文読解型

一定の分量の文章を読ませ、その内容や文章の一部について考えを答えさせるもの。「小論文」の中では代表的な出題形式。

③資料読解型

図やグラフを提示し、そこから読み取れる事柄について答えさせるもの。文章と違って図やグラフの読み取りを練習する必要がある。

3 小論文の基本ルール

ポイントは次の5点。①原稿用紙の使い方 ②日本語の正しい使い方 ③文字の読みやすさ ④各課題における条件を満たすこと ⑤意味段落、形式段落を設けること。

4 表現上のルール

①書き出し、段落の初めは1マス空ける。②「」、『』、「”」を正しく使う。③数字、英語、略語、カタカナを正しく書く。④話し言葉、流行語、略語を使わない。⑤漢字、熟語を正しく書く。⑥常体、敬体をどちらかに統一する。⑦体言止め・比喩など表現技法の使用に注意する。⑧段落を設定する。⑨主語と述語、修飾語と被修飾語を対応させる。⑩「～で、～に、～を、～は」等の助詞を正しく使う。⑪読点（、）を使いすぎない。⑫接続語、指示語を適切に使う。⑬身近な具体例をできるだけ使う。⑭感情的な表現を避ける。

【小論文の対策を練ろう！】

①志望に合わせた知識を吸収しよう。

課題に使われている語句を手がかりに図書館などで関係のある本をピックアップし、読めるところから読んでみる。新聞やニュースでもよい。本は全部読まなくてもよいので、気になるところ、理解できそうなところ、興味をもてそうなところを読み、ノートなどにメモをとる。

②新聞の投書欄、小論文の解答例などを書き写す。

その際、声に出して表現や考え方、話の進め方を意識して書き写す。その後、自分なりに思い出しながら書く。初めは例を見ては書くことを繰り返すのもよい。繰り返すうちに一字一句をそっくりそのまま書くことは面倒になって来るはずだ。そこで、自分なりに書いてみる。大体的話、内容、進め方がわかってきたら、何も見ないで思い出しながら自分なりに書く。

③ある程度自信がつけきたら、志望学部学科に即した形式、テーマの問題をやってみよう。

時間は制限せず、とにかく書いてみる。それを先生や他の人に添削してもらおう。添削された事柄を意識してもう一度書いてみる。これらを繰り返し、ある程度、添削されなくなったら、次の課題に進む。無駄な努力はないのだから、できるだけ多くの知識、見方、考え方を吸収し、それらを引き出せるようにしておくこと。必ず実力は身につくし発揮できるようになるので、頑張ってください。